

■ 基本方向 I あらゆる分野における女性の活躍

基本目標 1 社会における意思決定への女性の参画拡大

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時と比較	目標値と比較
1	市の審議会等における女性委員の割合	32.3% (2016.4.1)	40%	35.9%	↑	↓
	国の「第4次男女共同参画基本計画」の目標値を参考に設定					
2	市の管理職（課長級以上）における女性の割合	12% (2016.4.1)	20%	16.2%	↑	↓
	「茨木市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画（2016～2020年度）」の目標値を引用（一般行政職を含む全職員） なお2021年度は、次期計画の目標値を適用					
3	市立小・中学校長・教頭における女性の割合	16.3% (2016.4.1)	25%	21.74%	↑	↓
	大阪府の「公立学校における特定事業主行動計画」の目標値を参考に設定					

基本目標 2 働く場における男女平等

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時と比較	目標値と比較
4	賃金や待遇で「男女が平等になっている」と感じている人の割合	女性10.3% 男性21.2% (市民意識調査)	女性40% 男性50%	女性10.9% 男性19.6% (市民意識調査)	(女性) ↑ (男性) ↓	↓
	市民意識調査の結果をもとに「どちらかといえば〇〇の方が優遇されている」という回答者の半数が「平等」と回答するようになるよう算出					

基本目標 3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時と比較	目標値と比較
5	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉で「よく知っている・聞いたことがある人」の割合	女性38.8% 男性46.4% (市民意識調査)	50%以上	女性53.8% 男性62.2% (市民意識調査)	↑	↑
	2016年度の目標値を継続して設定					
6	「仕事」「家庭や地域活動」「個人の生活」など、現実と希望が一致した暮らし方をしている人の割合	女性38.5% 男性37.2% (市民意識調査)	女性70% 男性70%	女性48.4% 男性53.2% (市民意識調査)	↑	↓
	市民意識調査をもとに、希望した暮らし方ができていない人の割合が半数に減るよう算出					
7	市における男性職員の「育児休業」取得率	2.2% (2015年)	10%	22.2%	↑	↑
	「茨木市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画（2016～2020年度）」の目標値を引用（一般行政職を含む全職員） なお2021年度は、次期計画の目標値を適用					
8	パパ&ママクラスのカップルの参加率	82.1% (2015年)	85%	75.3%	↓	↓
	現状値をもとに今後の推移を考慮し、めざすべき数値として算出					

■ 基本方向Ⅱ 健やかに安心して暮らせる社会の実現

基本目標4 生涯を通じた男女のこころとからだの健康支援

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時 と比較	目標値と 比較
9	乳がん・子宮がん検診受診率	乳がん 16.8% 子宮がん20.1% (2015年)	乳がん 45% 子宮がん45%	乳がん 12.4% 子宮がん16.5%	↓	↓
上記、現状値及び目標値については、「健康いばらき21・食育推進計画（第3次）（2018～2023年度）2018年3月見直し」の目標値を引用						

基本目標5 女性に対する暴力の根絶

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時 と比較	目標値と 比較
10	「デートDV」という言葉を「よく知っている・聞いたことがある人」の割合	女性35.5% 男性29.5% (市民意識調査)	女性75% 男性75%	女性59.1% 男性51.2% (市民意識調査)	↑	↓
2016年度の目標値を継続して設定						
11	女性に対する暴力防止の啓発や講座の実施回数と参加人数	6回/年、373人 (2015年)	10回/年 650人	10回/年、327人	↓	↓
2016年度の目標値を継続して設定						
12	子ども・若者へのデートDV防止啓発や講座の実施回数と参加人数	18回/年、3,956人 (2015年)	27回/年 6,000人	3回/年、3,440人	↓	↓
現状値をもとに今後の推移を考慮し、めざすべき数値として算出						

基本目標6 だれもが安心して暮らせる社会づくり

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時 と比較	目標値と 比較
13	自治会長における女性の割合	16.8% (2015年)	20%	22.9%	↑	↑
現状値をもとに今後の推移を考慮し、めざすべき数値として算出						
14	地域子育て支援拠点事業の実施数	21か所 (2015年)	25か所	25か所	↑	→
「茨木市次世代育成支援行動計画（第3期：2015～2019年度）の目標値を引用（平成29年度に中間見直し） なお2020年度以降は、次期計画の目標値を適用						
15	自主防災組織の方針決定過程への女性の参画率	23.1% (2015年)	35%	27.5%	↑	↓
2016年度の目標値を継続して設定						

■ 基本方向Ⅲ すべての世代への男女共同参画意識の浸透

基本目標7 男女共同参画についても理解の促進

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時 と比較	目標値と 比較
16	「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の考え方に「反対・どちらかといえば反対」という人の割合	女性49.3% 男性39.1% (市民意識調査)	女性75% 男性55%	女性61.4% 男性56.0% (市民意識調査)	↑	(女性) ↓ (男性) ↑
	2016年度の目標値を継続して設定					
17	社会の慣習やしきたりで「男女が平等」と感じている人の割合	女性9.4% 男性18.9% (市民意識調査)	女性40% 男性50%	女性10.0% 男性13.8% (市民意識調査)	(女性) ↑ (男性) ↓	↓
	市民意識調査の結果をもとに「どちらかといえば〇〇の方が優遇されている」という回答者の半数が「平等」と回答するようになるよう算出					
18	自治会などの地域活動で「男女が平等」と感じている人の割合	女性43.0% 男性51.0% (市民意識調査)	女性65% 男性70%	女性42.2% 男性55.5% (市民意識調査)	(女性) ↓ (男性) ↑	↓
	市民意識調査の結果をもとに「どちらかといえば〇〇の方が優遇されている」という回答の半数が「平等」と回答するようになるよう算出					
19	ローズWAMの男女共同参画に関する図書等の貸出冊数	6,024冊 (2015年)	6,600冊	4,889冊	↓	↓
	現状値をもとに今後の推移を考慮し、めざすべき数値として算出					

基本目標8 男女共同参画を進める教育と学習の推進

番号	指標名	計画策定時	目標値 (2021)	現状値 (2021)	評価	
					計画策定時 と比較	目標値と 比較
20	男女共同参画社会推進登録団体数	17団体 (2015年)	22団体	14団体	↓	↓
	2016年度の目標値を継続して設定					
21	男女共同参画に関する講座の実施回数と事業に参加した子どもの人数	25回/年、1,502人 (2015年)	30回/年、 2,000人	20回/年、92人 デートDV入れたら (22回/年、332人)	↓	↓
	現状値をもとに今後の推移を考慮し、めざすべき数値として算出					
22	再就職セミナーや女性のためのスキルアップ講座の実施回数	23回/年 (2015年)	25回/年	17回	↓	↓
	現状値をもとに今後の推移を考慮し、めざすべき数値として算出					
23	男性の生活能力向上のための講座や事業の実施回数と参加人数	351回/年、2,561人 (2015年)	390回/年、 2,800人	167回/年、907人	↓	↓
	現状値をもとに今後の推移を考慮し、めざすべき数値として算出					